


令和2年度 さいたま市立大宮南小学校 自己評価書

さいたま市立大宮南小学校

校長 清水 肇 

1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 基礎・基本の確実な定着、わかる授業・よい授業、主体的・対話的で深い学びの推進
【評価項目】教育課程・学習指導の実施状況
- (2) 豊かな心を育て、いじめや差別を許さない指導の徹底、道徳教育の充実
【評価項目】生徒指導（いじめ防止を含む）・教育相談の状況
- (3) 地域や保護者との連携を強め、その願いに応える学校づくり
【評価項目】保護者・地域との連携の状況
- (4) 安心・安全な教育環境の整備と業務の効率化
【評価項目】生徒指導・学校環境・学校保健・学校安全の状況、業務の改善状況

2 評価結果について


- (1) 教育課程・学習指導の実施状況について
「よい授業」のアンケートでは、学校平均で、4因子とも、昨年の市平均を上回っており、「よい授業」が展開できた。学校評価の児童アンケートでは、「授業の内容がわかる」が98.3%、「がんばってできるようになった」が98.7%となっており、基礎・基本が定着してきている。一方、「自分の考えを伝えることができる」は94.7%と、他の項目よりやや低く、協働的な学習を充実させ、主体的・対話的で深い学びを、さらに推進させていく必要がある。
- (2) 生徒指導（いじめ防止を含む）・教育相談の状況について
児童の学校生活全般は落ち着いているが、進んであいさつができるようにすることが課題である。今年度、いじめに係る報告は4件あったが、状況が悪化する前に、生徒指導部、教育相談部を中心に、組織的に対応することができた。一方で、長期欠席の児童は8人である。教育相談部を中心に、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教育相談室などと連携し、さらに児童の心のケアに力を入れていく必要がある。
- (3) 保護者・地域との連携の状況について
保護者アンケート項目の「学校は、保護者や地域の願いに応えようとしている。」では、「できていない」は2%だったが、全体としては昨年度より数値が低かった。ウィズコロナの時代で、保護者、地域の新たな願いを理解し、今までとは違った、様々な形の連携の仕方を考え、信頼関係を構築していく必要がある。
- (4) 生徒指導・学校環境・学校保健・学校安全の状況、業務の効率化について
生徒指導・教育相談体制が、主任を中心に整っており、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携が図れていて素早く適切な対応ができています。施設の管理では、安全点検等の情報を管理職、担任等、事務職員、用務職員で共有し迅速に対応している。業務の改善では、物理的な改善、運用の改善、意識の改善が進み、勤務時間外在校時間が昨年度より大幅に減った。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- 基礎・基本を徹底し、主体的・対話的で深い学びをさらに推進していくために、これまでの研修の成果を生かし、学びの充実に努める。さらに、ICTを活用した授業の研究、実践を充実させ、より効果的な学びができるようにしていく。また、若手教員の指導力向上に向け、組織的な研修・指導体制を確立していく。
- 「あいさつ」については、保護者の方々からも、「防犯ボランティアの方々や登下校指導の保護者へのあいさつに課題がある。」との意見がある。あいさつの励行を年間の生活目標に設定し、南風あいさつ委員会であいさつ運動に取り組んできたが、今後も、友人・教職員に対してだけではなく、「誰に対しても、自分からあいさつができる」習慣づけを、登下校指導や道徳教育の充実により組織的に取り組む。

令和2年度 さいたま市立大宮南小学校 学校関係者評価書

さいたま市立大宮南小学校

学校関係者評価委員長 橋本 正晴 

1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数

9人

(2) 実施回数

2回

2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

- (1) 学校の取組として、今年度から、学習指導の面では『わかる』『できる』全員参加の体育授業～ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業改善～」を研究主題に、体育科を中心に授業研究を進め、指導者を招き、研究授業を行ったことや、学校行事等で、コロナ渦の中で、実施可能な方法を工夫し、日程を分散して、授業参観や体育授業公開を行ったことは評価できる。今後も、コロナ渦の中で、可能な形で、研修を深め、保護者、地域が連携できる行事の充実を図り、協力体制を継続して欲しい。
- (2) 登下校中の交通・防犯ボランティアさん等への挨拶については、地域の掲示板に感謝のポスターを貼ったり、南風あいさつ委員会が継続的にあいさつ運動に取り組んだりして、改善されつつあるが、まだ十分でない児童もいる。挨拶は、家庭、地域との連携をさらに充実させて、児童が誰にでも、感謝の心をもってできるよう、来年度も指導を継続して行って欲しい。
- (3) 大宮南小いじめ防止対策委員会を機能させ、児童がいじめ防止に向けた行動ができるよう、いじめが発生した場合に迅速に対応できるよう、今後も様々な取組を実施して行ってほしい。また、嫌な思いをしている児童などの把握がすぐできるよう、アンケートを充実させ、児童全員と面談を行う等、全職員でいじめ防止策にも、継続して取り組んでほしい。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- 1 体育科を中心に、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、一人ひとりの児童、全員が楽しく、能力を伸ばせる授業を目指し、スモールステップのあり方や、場の設定の仕方を工夫し、学びの充実に努める。また、どのクラスでも、充実した授業ができるように、授業の構造化にも努めていく。さらに、若手教員の指導力向上に向け、組織的な研修、指導体制を確立していく。
- 2 挨拶については、今年度、挨拶の励行を年間の生活目標に設定し、南風あいさつ委員会が定期的に活動できるようにし、取り組んできた。しかし、地域の方々等や朝、旗当番をしてくださっている保護者への挨拶については、未だ不十分である。次年度も、友人、教職員に対してだけでなく、「誰に対しても、自分からあいさつができる」習慣づけを、地域や保護者とより連携を図り、指導を継続していく。
- 3 いじめ防止については、「南小いじめ防止基本方針」に沿って、組織的にその防止と対応に努めている。今年度も教育相談日・教育相談週間を設定し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、外部機関との連携を迅速に行った。コロナ渦の中であったが、児童会中心によるスローガン作り等の取組も実施した。また生徒指導委員会を中心に、「報告、連絡、相談、見届け」を徹底し、組織的に未然防止と対応にも努め、定期的にアンケートも実施し、児童全員と面談を行う等、より丁寧ないじめ防止策に、継続して取り組んできた。次年度も、全職員で「いじめ防止」に向けて、これらの取組を継続、充実させていく。

さいたま市立大宮南小学校長 清水 肇 印

※ A4 1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。